

大山隠岐国立公園の特徴

島根、岡山、鳥取の三つの県にまたがって所在する大山隠岐国立公園は、35,353 ヘクタールの変化に富む見事な景観を持つ国立公園だ。1936 年に大山国立公園として指定され、その後、現在の区域（毛無山、三徳山、大山-蒜山高原・三瓶山・隠岐・島根半島）へと拡張された。

公園の生態系は、山の森林、温泉、広大な草原、湿地、岩だらけの海岸線、離島などへ広がり、非常に多岐にわたる。地方特有の種類や絶滅危惧種も数多く棲み公園に守られていることで貴重な動植物が維持されている。

同様に、この地域の人々の歴史や生活は、大山隠岐の風景と切っても切れない部分として長い時間を経て発展してきた。実際に、公園には日本の神話の語られる場所のほとんどが所在し、訪れる者たちは神々の足跡をたどることができる。

大山隠岐国立公園には、独自の風景と動植物、そしてそれらを生活に採り入れてきた人々が含まれている。手つかずの自然環境と場所の両方が人々の歴史と深く交わり合うこの公園では、世界の進化についてたくさんの魅力的な面を見ることができる。